

Next! Shikokuchuo

\\ まちの話題 //



000

無料できれいに撮れる

- 12 1 THU
撮影と申請がその場で完了！
マイナンバーカード申請が便利です

市役所市民交流棟 1 階、川之江窓口センター・土居窓口センターの玄関前にマイナンバーカードが無料申請できる証明写真機が設置されました。交付申請書に記載されている二次元コードをかざして撮影すると申請完了です。詳細は、11 ページをご覧ください。



- 12 13 TUE
本物の書道文化に触れた感動を！
書道パフォーマンスの生みの親が教導

本市の書道文化や楽しさをもっと知ってもらおうと、福岡教育大学の服部一啓教授(元三島高校書道部顧問)によるワークショップがフジグラン川之江で開催。参加した親子たちは、自ら墨をすり、市内産の紙や水引を使って新年のカレンダーや葉を完成させました。



- 11 17 THU
つながる・ひろがる新しい学び、未来への挑戦
日本 ICT 教育アワード 協議会会長賞受賞

コロナ禍でも子どもたちの学びを止めない！ ICT を活用した「新しい学び」を推進している本市の取り組みが先進的な教育に取り組む自治体として評価されました。授業改革や教職員研修、プログラム授業など、あらゆるシーンで子どもたちの日常的な学びに役立つよう ICT が取り入れられています。



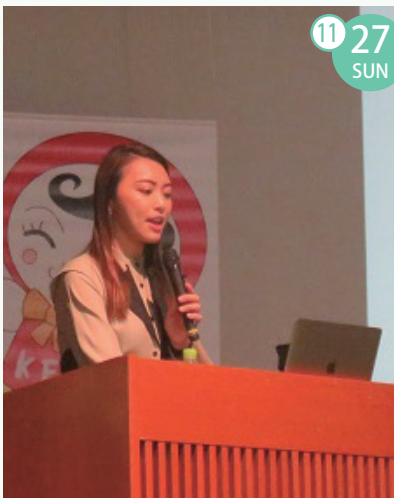
国際ファッションセンターホール (東京都墨田区)



11 12 SAT

- 11 12 SAT
地元高校生たち 30 名が
ワークショップでみらいづくり

将来まちを担う若い世代と行政が、地域の担い手を育成するためにワークショップを開催。現代美術家のかざまてんしん風間天心氏やイラストレーターのわしおともゆき鷺尾友公氏が講師となり、本市の魅力を掘り下げ、参加者たちは自らが将来住み続けたいまちの姿をデザインし、発表し合いました。



11 27
SUN

人権のつどい 三木幸美さん講話

差別のない明るい幸せな暮らしを実現するための人権のつどいが福祉会館で開催されました。フィリピンと日本のハーフとして生まれた三木さんは、マイノリティーの中で自身が体験した「心の壁」を参加者300名の前で熱く語りました。



11 22
TUE

11 25 FRI 日本郵便が書道パフォーマンス 甲子園を切手でPR

日本郵便四国支社が、市の魅力発信のため、先の大会をモチーフとしたオリジナルフレーム切手を販売。東予5市町内の全郵便局と日本郵便のインターネットショップで販売中です。



入賞校の作品や演技の写真が切手にデザインされています



東京都 SHIBUYA QWS で

「紙」製品利用促進ワークショップ開催

「日本一の紙のまち」のPRと市内企業が生産する持続可能な紙製品の利用を促すためのワークショップが東京都であり、参加した関係者は利用や販路拡大のアイデアを出し合いました。

12 7
WED

いざ全国へ！押忍！！

日本空手道敬心館（武村敬介館長）の選手たちが全国大会への出場を決めました。左から、大西みずきさん（寒川小5年）、奥村えにしさん（中曽根小3年）、三宅梨心さん（中曽根小3年）、三宅健心さん（中曽根保育園）、大西杜和さん（寒川小3年）、奥村きょう響さん（三島西中2年）。



11 28
MON

火災の早期消火へ 住宅用火災警報機寄贈



▶全国社会教育委員連合表彰を受けた石黒忠則さん（川之江町）が市役所を訪れ、篠原市長に受賞を報告。長年にわたる社会教育の推進や発展の功績が評価されたものです。

◀(有)清水防災（上柏町）から一人暮らしの高齢者住宅へ住宅用火災警報器100個を寄贈していただきました。長野大嗣代表取締役は「火災で人命が失われないような街づくりに貢献したい」と話されました。

12 16
FRI

全国社会教育委員連合 表彰を受賞



11 19 SAT

3年ぶりに屋外テントが立ち並ぶ 産業祭に活気あふれる

屋外では、新宮茶や市産品の銘菓、柑橘などが販売され、お目当ての品を買って求める来場者で会場はにぎわいをみせていました。また屋内では紙製品や赤石五葉松、里芋株などの作品が展示され、来場者を楽しませていました。



12 7 WED

ツアーで観光資源発掘へ「四国家のお宝」 川之江信金・JR四国・市が共催

日本一の紙のまちを楽しむ企画に、たくさんの応募の中から選ばれた40名が参加。オリジナルの水引細工を作ったり、普段見ることのできない製紙工場を見学するなど、本市ならではの魅力溢れる旅を満喫しました。



12 4 SUN

吉田栄作など豪華キャストが熱演 ミュージカル クリスマス・キャロル

イギリス名作小説を原作としたミュージカル「クリスマス・キャロル」がしこちゅ〜ホールであり、吉田栄作や早見優が出演。セリフ・歌・ダンスで表現する演者たちの熱演に会場からは惜しみない拍手が送られました。



11 19 SAT

5分間の作品で心を震わす 川之江高校バトン部、全国へ

20メートル四方の床の上でバトンを使い、音楽に合わせてながらその表現を行うバトン競技。コロナ禍で思うように部活ができなかった苦しみと、コロナが明けた世界への希望を表現した5分間の彼女たちの演技力を、審査員は非常に高く評価。見事、県代表として全国大会へ出場する切符を手に入れました。





「善行は、社会を照らすともしび」
日本善行会 秋季善行表彰

個人や団体が行っている善行活動を称える表彰があり、市内では内田晴子さん（新宮町馬立）、石川俊和・伊津子さん夫妻（上柏町）、ほんわかくらぶ（藤田万由美代表）、大門壮年会（藤田仁志代表）が受賞。篠原市長は、表彰状を伝達するとともに、その活動に感謝と労いの言葉をかけていました。

市長の

ひとりごと

いりこパワー



四国中央市長
篠原 実

師走に入ると、瞬く間に時間が過ぎ去り、今年を振り返る暇もない中アメリカの真鍋淑郎博士夫人から、年末の挨拶メールが届いた。

夫人からの素敵なメールにうなずきながら、真鍋博士が四国中央市のいりこをかじっている姿を想像して、思わず、にこっと笑ってしまつた。カルシウムを取るにはいりこが一番だね。

真鍋博士の住む、プリンストンの方角に向けて手を合わせ、「淑郎博士、信子夫人、いつまでもお元気でいてくださいね。」と願つた。

本年が、市民の皆さまにとりまして、一歩でも明るい年でありますよう心より祈念申し上げます。

市長さま

12月の声を聞き、アメリカは一気にクリスマス装いの装いです。師走に入り、日本の便りにも2023年に対する期待も込め、経済も上向きはじめてたようですが、四国のほうはいかがでしょう？

淑郎先生も激減していた体重も少しずつ増え、喜んでいきます。

いただいた「媛いりこ」。テーブルにいつも置いて、その側を通るたびつまんでいます。

骨が脆くなり、2か月に一度骨を強くする注射を打っていますが、「いりこの方が絶対にいいね」と話してつまんでいます。日本の食の素晴らしさを痛感しています。

四国中央市の皆様の来る年の健康を祈ります。良い年をおむかえくださいませ。

真鍋信子拝



本市特産品の「ひうち媛いりこ」を手に持つ真鍋淑郎博士。「あんまり美味しそうに食べているので写真に撮りました。」と、信子夫人。